

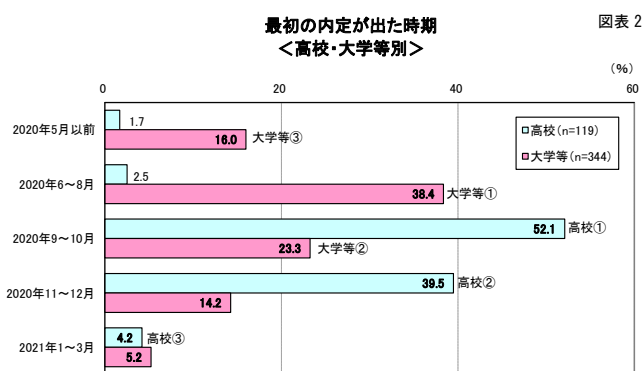
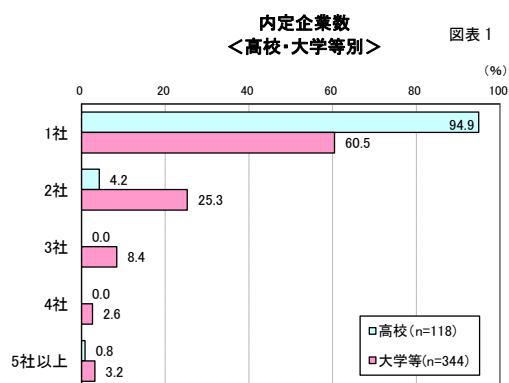
2021年度栃木県内企業の「新入社員意識調査」

<調査結果のポイント>

2021年3月から4月にかけて実施した「新入社員意識調査」のポイントは以下の通り。

1. 就職活動の状況について

- ・セミナー受講者の内定企業数を学歴別にみると、高校卒業者・大学卒業者等ともに「1社」が最も多くなった（高校卒業者：94.9%、大学卒業者等：60.5%）。（図表1）
- ・最初の内定が出た時期について、高校卒業者は「2020年9～10月」をピークに、9割超の人が2020年12月までに内定が出ている。
- ・大学卒業者等では、最初の内定が出た時期は「2020年6～8月」が38.4%と最も多く、次いで「2020年9～10月」23.3%、「2020年5月以前（2020年度以前の入社者を含む）」16.0%となった。（図表2）
- ・コロナ禍の就職活動で苦労したことについて、高校卒業者は「求人が（思ったより）少なかった」が46.6%、大学卒業者等は「説明会や面接がWebになり対応に苦労した」が31.8%と最も多かった。



※「2020年5月以前」には2020年度以前の入社者を含む

2. 仕事と働き方に関する意識について

- ・入社にあたり不安に感じていることについて、セミナー受講者全体では「仕事についていけるかどうか」が69.3%と最も多く、次いで「上司や同僚など職場の人間関係」55.8%、「生活環境や習慣の変化に対応できるか」40.3%となった。
- ・男性の育児休暇取得について、男性には育児休暇を取りたいかどうか、女性にはパートナーにとってほしいかどうか聞いたところ、「ぜひ取りたい（ぜひ取ってほしい）」40.1%と「できれば取りたい（できれば取ってほしい）」49.7%を合わせた“育休希望派”は89.8%となった。

3. 転職や出世について

- ・将来の勤務・転職等に関する意識については、「定年までこの会社で働きたい」が52.8%と最も多い。

<調査概要>

調査目的 : 本調査は、栃木県内の企業や自治体（一部県外含む）の新入社員の就職活動の状況や働き方への考え方を把握する目的で実施しているものである。
※本調査は2010年度から実施している。ただし、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により、当社セミナーを中止としたため本調査未実施。

調査期間 : 2021年3月30日～4月26日

調査方法 : あしぎん総合研究所が栃木県内で行ったセミナー受講時に、紙アンケートにて実施。

調査対象 : あしぎん新入社員セミナーの受講者
(セミナー開催回数 合同セミナー12回・個別セミナー4回)

回答者数 : 473名 (回答率 100.0%)

内 訳 : 男性241名、女性231名、不明1名

〔 高校卒業者 25.4%
大学卒業者等 (大学・大学院・高専・短大・専門学校・その他) 74.6% 〕

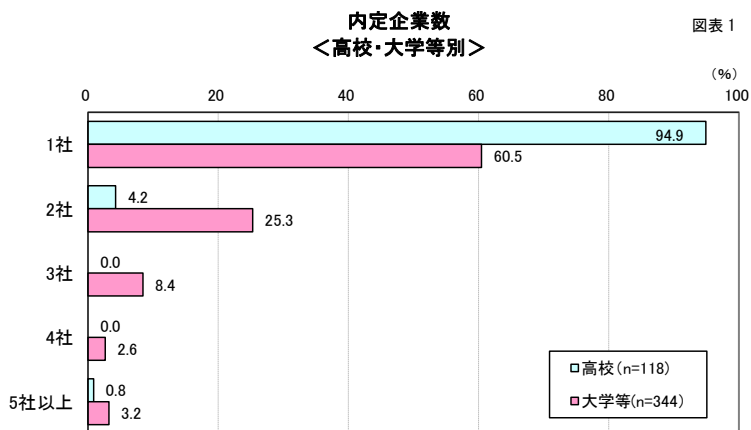
注 意 点 : 図表中のnとは、回答者数のことである。集計は小数点第2位を四捨五入しているため、数値の合計は100%にならない場合がある。

目 次	1. 就職活動の状況について	
	(1) 内定企業数	P 3
	(2) 最初の内定が出た時期	P 3
	(3) 訪問企業数	P 4
	(4) コロナ禍の就職活動で苦労したこと	P 4
	(5) 企業情報の収集方法	P 5
	(6) 企業を選ぶ基準	P 5
	2. 仕事と働き方に関する意識について	
	(1) 就職する・働く目的	P 6
	(2) 入社にあたり不安に感じていること	P 7
	(3) 仕事とプライベートの優先順位	P 8
	(4) 男性の育児休暇に関する意識	P 9
	3. 転職や出世について	
	(1) 将来の勤務・転職等に関する意識	P10
	(2) 出世に関する意識	P11

1. 就職活動の状況について

(1) 2021年度セミナー受講生の内定企業数 (図表1)

- ・学歴別にみると、高校卒業者は「1社」が94.9%と最も多く、次いで「2社」4.2%、「5社以上」0.8%となった。
- ・大学卒業者等は「1社」が60.5%と最も多く、次いで「2社」25.3%、「3社」8.4%となった。 ※大学卒業者等：大学、大学院、高専、短大、専門学校、その他の合計



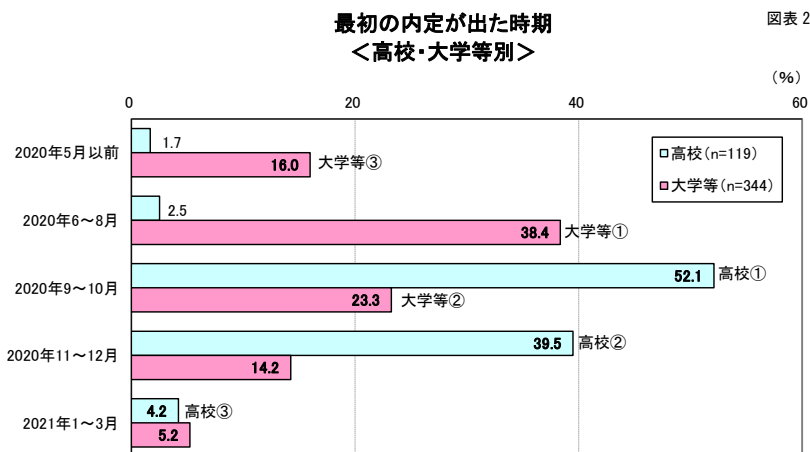
(2) 最初の内定が出た時期 (図表2)

- ・学歴別にみると、高校卒業者は選考開始* (2020年10月) の「2020年9~10月」が52.1%と最も多く、次いで「2020年11~12月」39.5%、「2021年1~3月」4.2%となった。

※関係団体・省庁取り決めによる高校卒業者の選考開始時期は、新型コロナウイルス感染拡大により、2020年度卒業者については従来の9月より1カ月延期となり、10月となっていた。

- ・大学卒業者等は、選考開始* (2020年6月) 以降の「2020年6~8月」が38.4%と最も多く、次いで「2020年9~10月」23.3%、「2020年5月以前 (2020年度以前の入社者を含む)」16.0%となった。

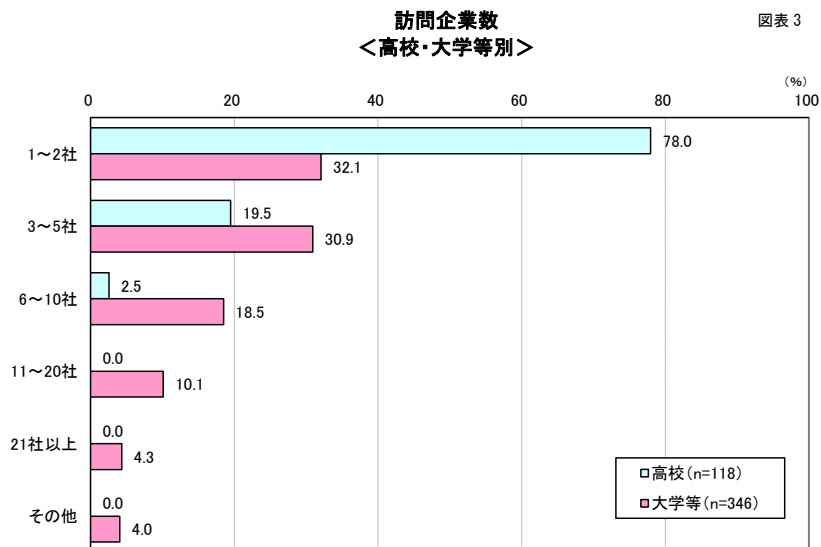
※2020年度大学卒業者等の選考開始時期は従来通り6月で変更はなかった。これまで「採用選考に関する指針」を定めていた経団連が、2021年度以降に入社する学生を対象とした指針は策定しない方針を表明したため、政府が「就職・採用活動日程に関する考え方」として経済団体等へ要請することになった。



※「2020年5月以前」には2020年度以前の入社者を含む

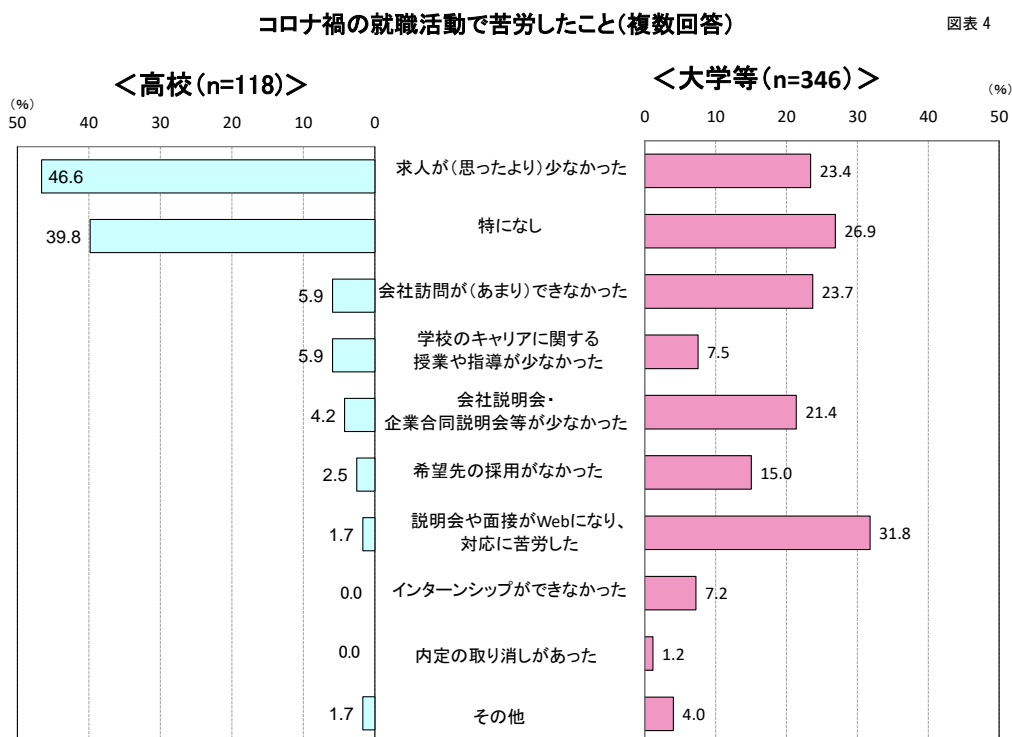
(3) 就職活動における訪問企業数（会社説明会を含む）（図表3）

- ・ 学歴別にみると、高校卒業者は「1～2社」が78.0%と最も多くなり、次いで「3～5社」19.5%、「6～10社」2.5%となった。
- ・ 大学卒業者等は「1～2社」が32.1%と最も多く、次いで「3～5社」が30.9%で全体の6割超を占める結果となった。



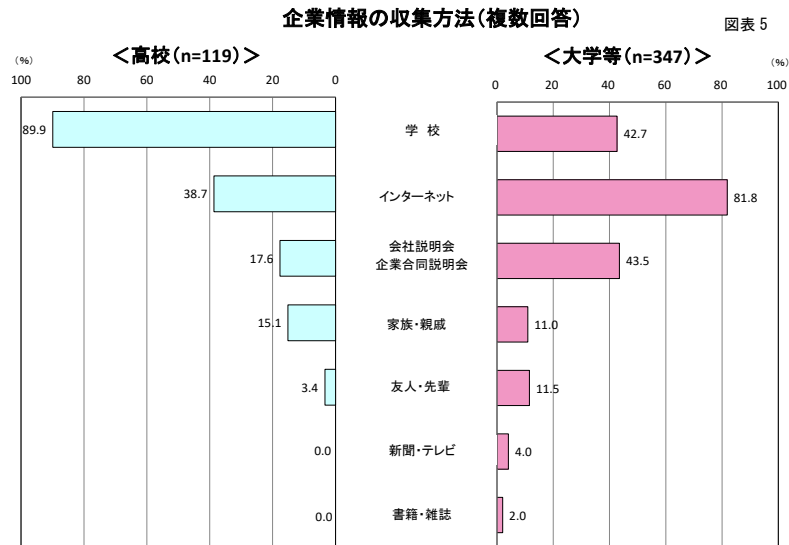
(4) コロナ禍の就職活動で苦労したこと（図表4）

- ・ 学歴別にみると、高校卒業者は「求人が（思ったより）少なかった」が46.6%と最も多く、次いで「特になし」39.8%、「会社訪問が（あまり）できなかった」・「学校のキャリアに関する授業や指導が少なかった」が各5.9%となった。
- ・ 大学卒業者等は「説明会や面接がWebになり対応に苦労した」が31.8%と最も多く、次いで「特になし」26.9%、「会社訪問が（あまり）できなかった」23.7%となった。



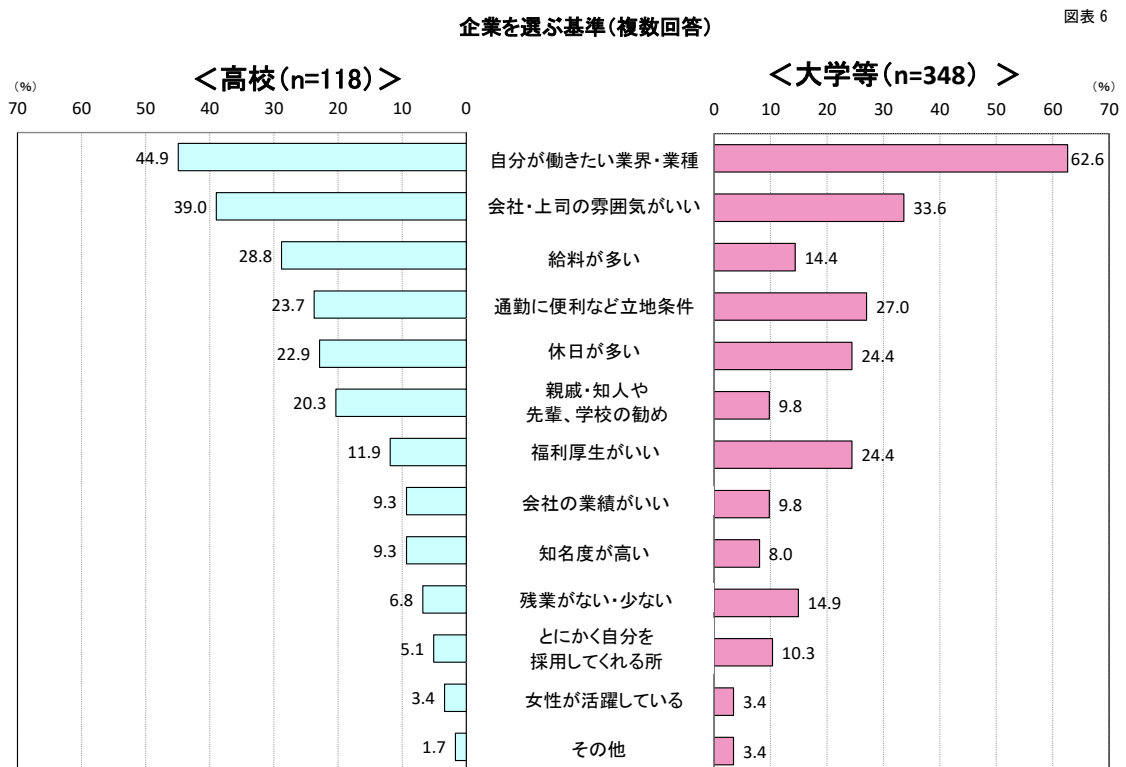
(5) 企業情報の収集方法 (図表5)

- ・学歴別にみると、高校卒業者は「学校」が89.9%と最も多く、次いで「インターネット」38.7%、「会社説明会・企業合同説明会」17.6%となった。
- ・大学卒業者等は「インターネット」が81.8%と最も多く、次いで「会社説明会・企業合同説明会」43.5%、「学校」42.7%となった。



(6) 企業を選ぶ基準 (図表6)

- ・学歴別にみると、高校卒業者は「自分が働きたい業界・業種」が44.9%と最も多く、次いで「会社・上司の雰囲気がいい」39.0%、「給料が多い」28.8%となった。
- ・大学卒業者等は「自分が働きたい業界・業種」が62.6%と最も多く、次いで「会社・上司の雰囲気がいい」33.6%、「通勤に便利など立地条件」27.0%となった。



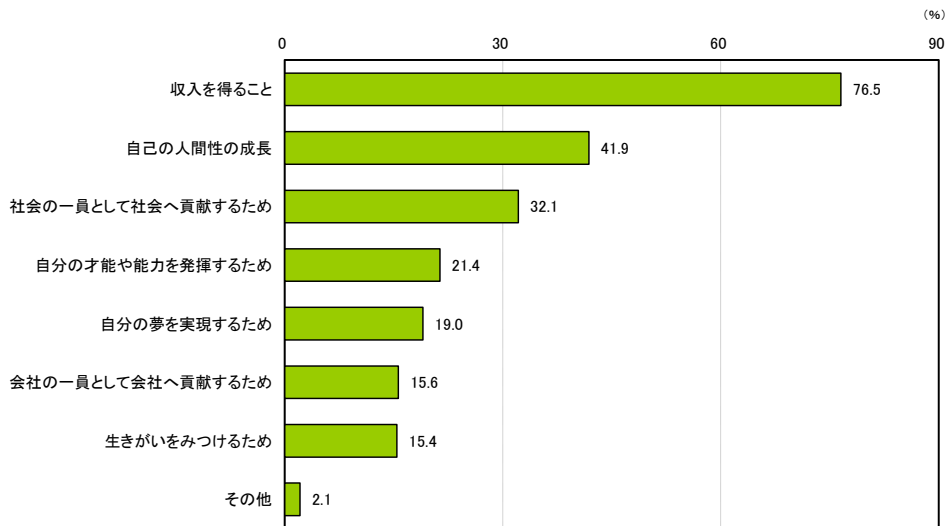
2. 仕事と働き方に関する意識について

(1) 就職する・働く目的 (図表7)

- ・セミナー受講者全体では「収入を得ること」が76.5%と最も多く、次いで「自己の人間性の成長」41.9%、「社会の一員として社会へ貢献するため」32.1%となった。

就職する目的(複数回答 n=473)

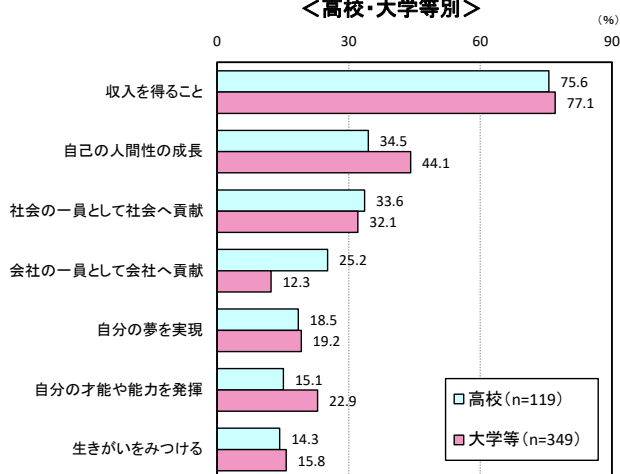
図表7



- ・就職する・働く目的について学歴による差をみると、高校・大学等別であまり違いはみられないが、「会社の一員として会社へ貢献するため」については高校卒業者が重視する傾向にあった。(図表8)
- ・性別による差をみると、男女にあまり違いはみられないが、「生きがいを見つけるため」については男性が重視する傾向にあった。(図表9)

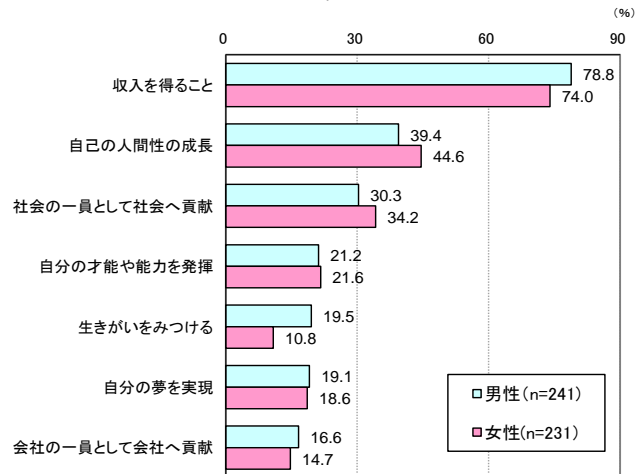
就職する目的(複数回答)
＜高校・大学等別＞

図表8



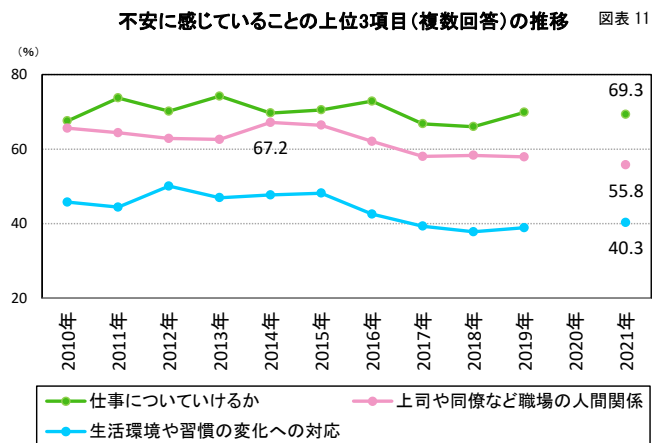
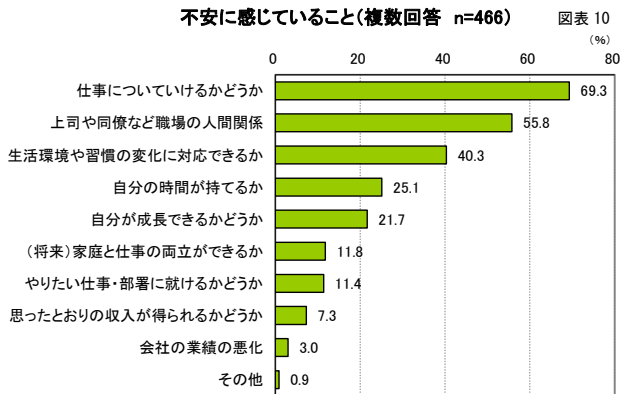
就職する目的(複数回答)
＜男女別＞

図表9



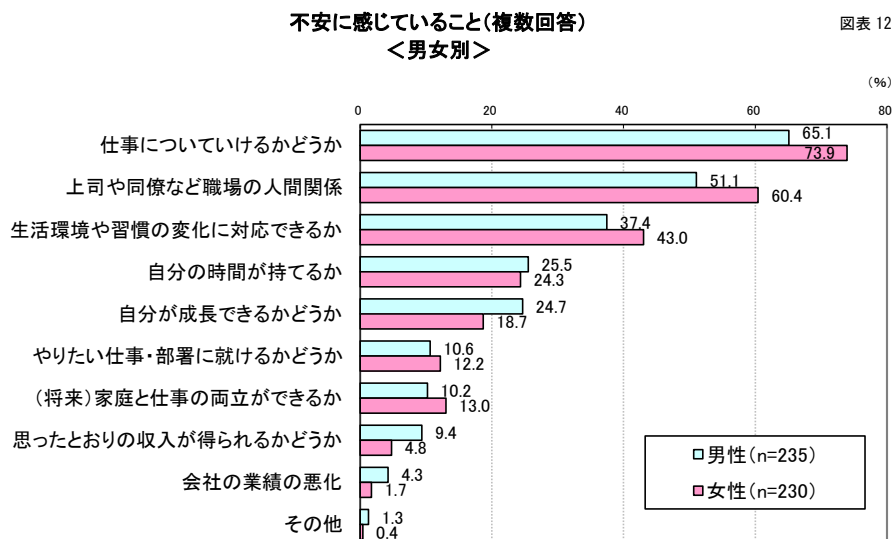
(2) 入社にあたり不安に感じていること

- ・セミナー受講者全体では「仕事についていけるかどうか」が69.3%と最も多く、次いで「上司や同僚など職場の人間関係」55.8%、「生活環境や習慣の変化に対応できるか」40.3%となった。(図表10)
- ・2010年度からの推移でみると、上位3項目の順位に変わりはないが、「上司や同僚など職場の人間関係」は2014年度の67.2%から11.4ポイントの減少となり、最も少なくなった。(図表11)



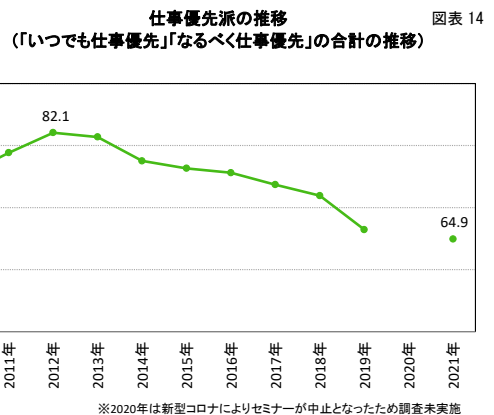
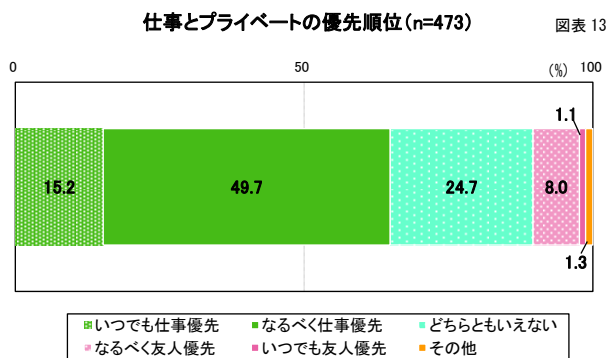
※2020年は新型コロナの影響によりセミナーが中止となったため調査未実施

- ・入社にあたり不安に感じていることについて性別による差をみると、「仕事についていけるかどうか」・「上司や同僚など職場の人間関係」については、女性の不安が大きいことがわかる。(図表12)

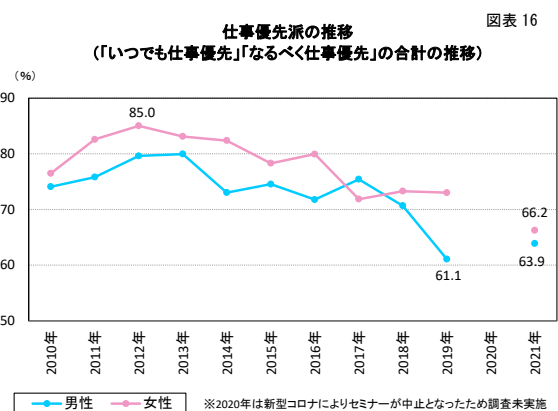
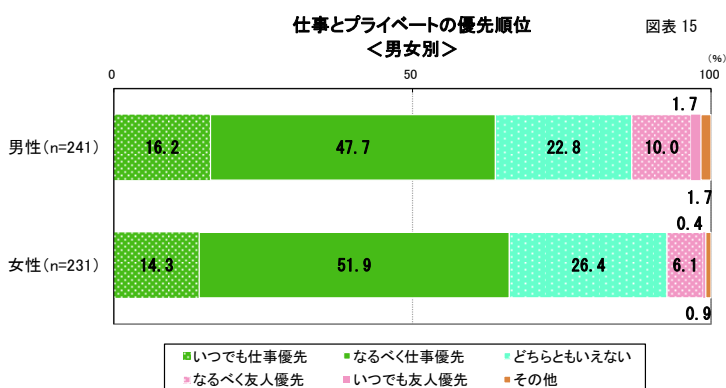


(3) 仕事とプライベートの優先順位

- ・仕事（残業など）と友人との約束が重なった場合どちらを優先するか聞いたところ、「いつでも仕事を優先」15.2%、「なるべく仕事を優先」49.7%となった。「いつでも仕事優先」と「なるべく仕事優先」を合わせた“仕事優先派”は64.9%となった。（図表13）
- ・一方、「なるべく友人優先」8.0%、「いつでも友人優先」1.1%の“友人優先派”は9.1%となった。
- ・仕事とプライベートの優先順位のうち、“仕事優先派”の推移をみると、回答割合は減少傾向が続いている。2012年度（82.1%）と比較すると、17.2ポイント減少し最も少なくなった。（図表14）



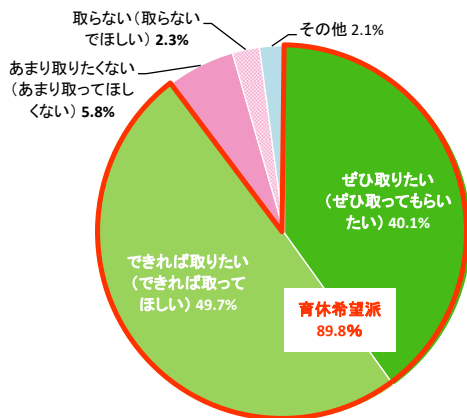
- ・男女別では、「いつでも仕事優先」と「なるべく仕事優先」を合わせた“仕事優先派”は男性63.9%、女性66.2%となった。（図表15）
- ・一方、「なるべく友人優先」と「いつでも友人優先」を合わせた“友人優先派”は男性11.7%、女性6.5%となった。
- ・仕事とプライベートの優先順位の内、“仕事優先派”の推移をみると、女性は2012年度（85.0%）より18.8ポイント減少し、過去最低の66.2%となった。男性は過去最低だった2019年度（61.1%）より2.8ポイント増加し、63.9%となった。（図表16）



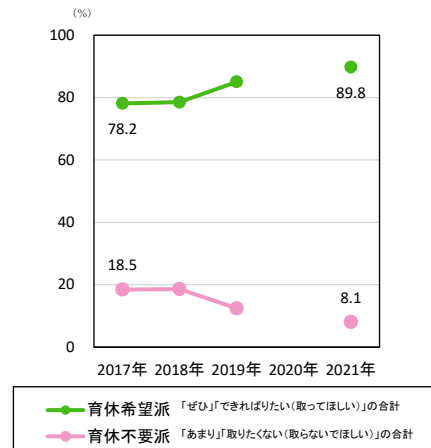
(4) 男性の育児休暇に関する意識

- ・男性の育児休暇取得について、男性には取りたいかどうか、女性にはパートナーに取ってほしいかどうか聞いたところ、「できれば取りたい（できれば取ってほしい）」が49.7%と最も多く、次いで「ぜひ取りたい（ぜひ取ってほしい）」40.1%となった。（図表 17）
- ・「ぜひ取りたい（ぜひ取ってもらいたい）」と「できれば取りたい（できれば取ってほしい）」を合わせた“育休希望派”は89.8%となった。
- ・男性の育児休暇に関する意識の推移をみると、“育休希望派”の回答割合は増加傾向が続いている。調査を始めた2017年度（78.2%）と比較すると11.6ポイント増加した。（図表 18）

男性の育児休業に関する意識(n=469) 図表 17



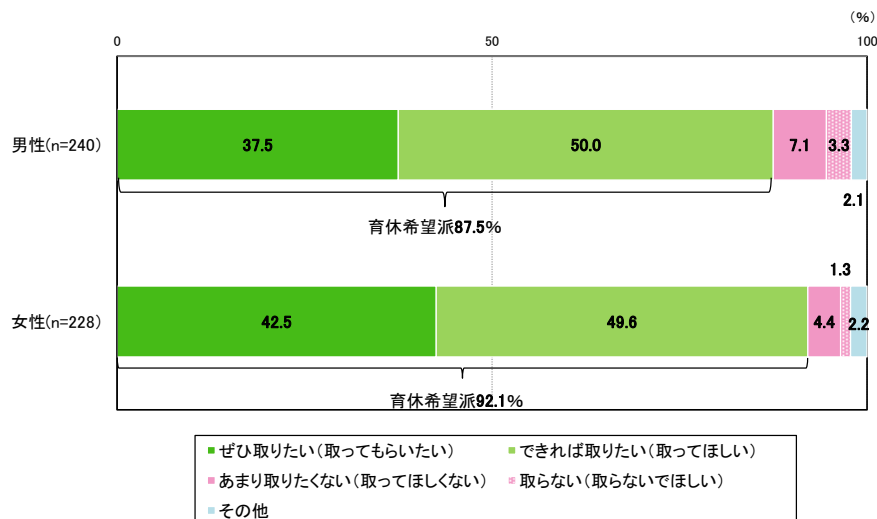
男性の育児休暇に関する意識の推移 図表 18



※2017年より調査実施
2020年は新型コロナによりセミナーが中止となったため調査未実施

- ・男女別にみると、男性は「ぜひ取りたい」37.5%と「できれば取りたい」50.0%を合わせた“育休希望派”は87.5%となった。（図表 19）
- ・女性は「ぜひ取ってほしい」42.5%、「できれば取ってほしい」49.6%を合わせた“育休希望派”は92.1%となった。

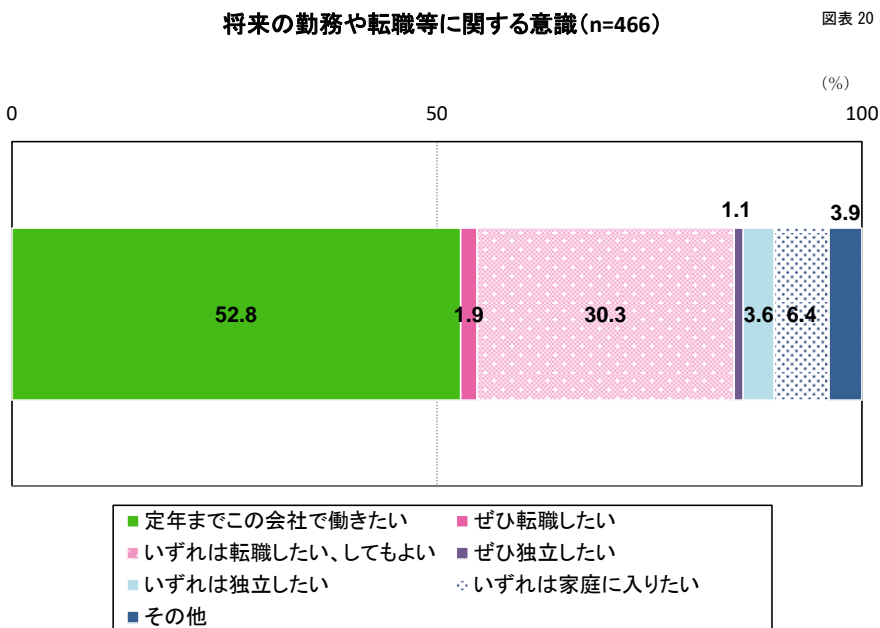
男性の育児休暇に関する意識 <男女別> 図表 19



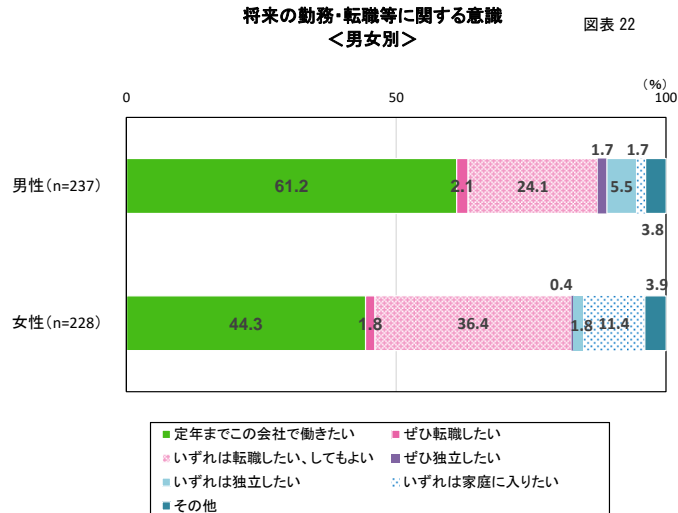
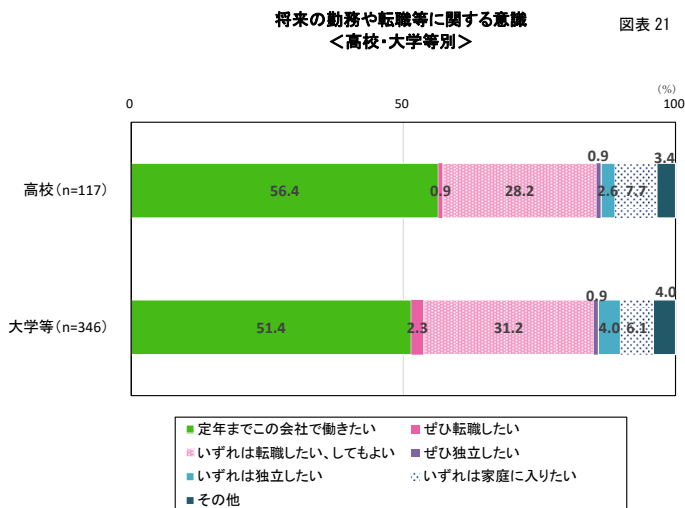
3. 転職や出世について

(1) 将来の勤務・転職等に関する意識

- ・セミナー受講者全体では「定年までこの会社で働きたい」が52.8%と最も多い。(図表20)

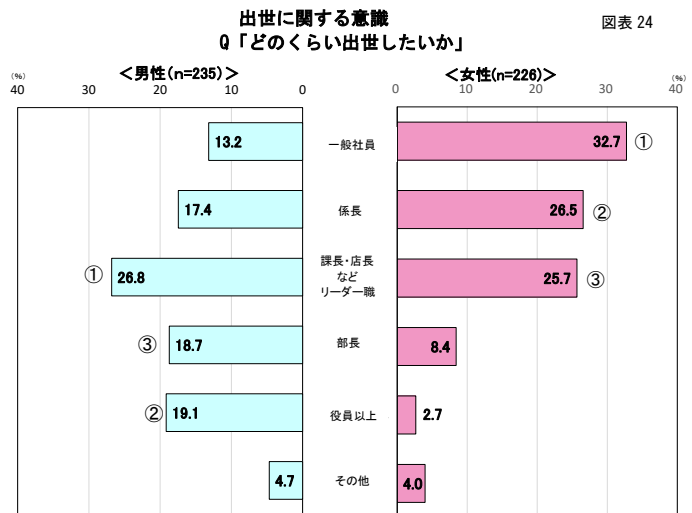
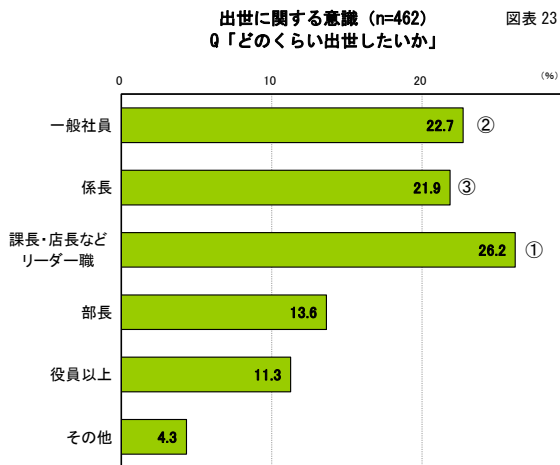


- ・高校・大学等別では、「定年までこの会社で働きたい」は高校卒業生 56.4%、大学卒業生等 51.4%となった。(図表21)
- ・男女別では、「定年までこの会社で働きたい」は男性61.2%、女性44.3%となった。(図表22)

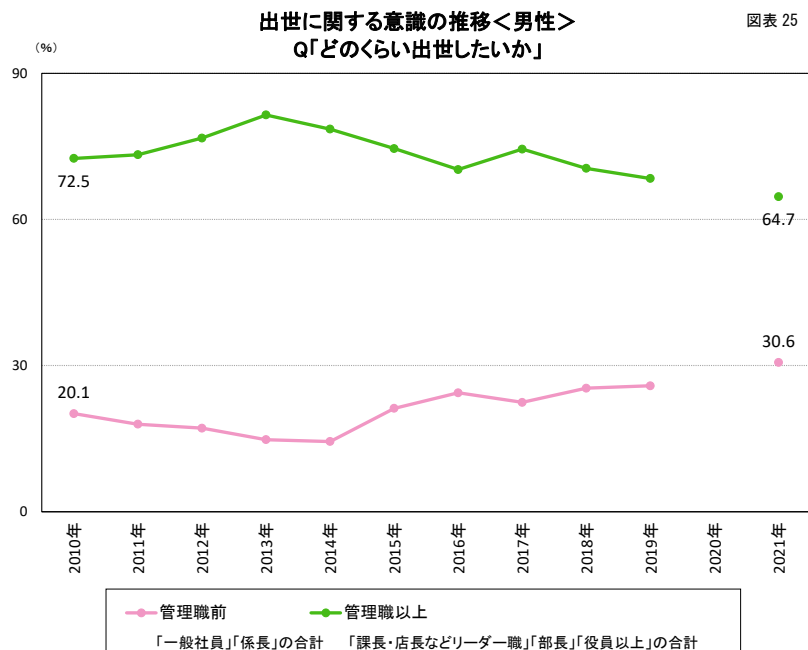


(2) 出世に関する意識

- ・どのくらいまで出世したいか聞いたところ、「課長・店長などのリーダー職」が26.2%と最も多く、次いで「一般社員」22.7%、「係長」21.9%となった。(図表23)
- ・男女別では、男性は「課長・店長などのリーダー職」が26.8%と最も多く、次いで「役員以上」19.1%、「部長」18.7%となった。
- ・女性は「一般社員」が32.7%と最も多く、次いで「係長」26.5%、「課長・店長などのリーダー職」25.7%となった。(図表24)



- ・出世に関する意識の内、男性の推移をみると、一般に“管理職前”と言われる「一般社員」と「係長」を合わせた回答の割合が増加傾向で推移している。2010年度(20.1%)と比較すると、10.5ポイント増加した。(図表25)



※2020年は新型コロナによりセミナーが中止になったため調査未実施

以上